



一人ひとりに情報を届けたい 歳末街頭募金活動

寒さ厳しい年の瀬の12月26日、京都タワー前で歳末街頭募金活動を実施しました。参加したボランティアは7名。大声でご協力のお願いをしながらチラシを配布します。年末の忙しさなのでしょうか、あるいは雪がちらつく寒さのせいかもしれませんが、最初はチラシを受け取っていただくことができませんでした。ポケットに手を入れておられる方も多く、かじかむ手でチラシを配布するのはなかなかの困難です。街頭では、そういった状況に、つい心が折れてしまいます。しかし、そんななかで「頑張ってください」や「ご苦労様です」や「大事な活動だからね」といった励ましの声をいただくこともあります。さまざまな方々に支えられえていることを実感します。

支えてくださる方がいて、私たちは自死にまつわる苦しみを抱えた方を支えていく活動ができることをありがたく感じています。そうした想いを無駄にしないためにもしっかりとした活動をしていくことが必要です。

毎年この時期になると、年間の自死者数が公表され、〈3万人超え〉〈3万人をきる見込み〉など、自死された方の総数ばかりが注目されます。もちろんたくさんの方が自死されたという事実から考えなければいけないこともたくさんあります。しかし、私たちは自死された方一人ひとりのこと、大切な人を亡くされた方一人ひとりのことを想っていたい。また、自死されていない方も、今まさに死にたい気持ちで苦悩されている方のことを考えたい。総数ではなく、一人ひとりに目をむけた活動をしていきたいと思っています。〈一人ひとりのもとに情報を届ける〉という気持ちで、これからも街頭募金活動を続けます。 (広報委員長 中西 正導)



●横断幕を掲げ、大声で呼びかけます。

被災地ノート ⑭



現地の灯

居室訪問活動では、仮設住宅にお住まい方の「死にたいほどの苦悩を抱えている方の孤独による苦悩を和らげる」ということを目的に、活動を続けている。

ここでは、現地在住のボランティアが積極的に訪問活動に参加しており、また、現地に限らず、この目的に賛同して下さった多くの方たちが直接・間接を問わず、陰日向に活動を支えている。

私自身も、現地のボランティアとともに活動をする中で、また、各地の方のご意見を聞かせて頂く中で、たくさんの気づきや学びを頂きながら、現在に至っている。

先日、現地のボランティアと仮設住宅へ活動に赴くまでの車中。

「ガソリンが半分になると、なんだか不安になるのよね」と、漏らされた。

何気ない一言であったが、その方の漏らされた一言には、現地に住む人々の心に、震災が与えた影響が物語られていた。

車の中に、「いつでも逃げられるように」と着替えや食料を積んでいる方もいる。

ほかにもボランティアのなかには、多くのものを失った方もいる。

それでも、仮設にお住まいの「死にたいほどの苦悩を抱えている方の孤独による苦悩」に関わりたいと思っているボランティアが現地にはいる。

今はまだ、小さな灯かもしれない。

しかし、現地にいるボランティアの一つひとつの、そうした思いを大切にしていきたい。

1月26、27日には、5回目の居室訪問ボランティア養成講座を、仙台で開催する。

現地の灯が、少しでも大きくなってくれればと思う。

(ボランティア2期生 A.C.)

Sotto レビュー

宮地尚子 著 (岩波ブックレット)

『震災トラウマと復興ストレス』

東日本大震災から3年がたとうとしている。現地で活動するボランティアの方のお話をきき、また原発をめぐるニュースをみるなかで、けっして震災は終わっているわけではないことを実感する。

本書は、震災からの「復興」がもたらす被災者と支援者が抱える「傷つき」について、長期的な視点から解説した書である。とくに被災者だけでなく、その周辺の人々などに焦点をあてており、遺された者の悲嘆反応や罪悪感などが読者に理解し易く解説されている。それだけでなく、本書のポイントは、支援者がかかえる様々な感情についても、丁寧な指摘がなされる点である。支援者どうしが互いに支援の素晴らしさを競い合う支援競争、だれが最も被災者の苦悩を汲み取れているかを競い合う共感競争などである。さらに、支援の表舞台にはみえてこない後方支援者がいかに罪悪感などについても言及する。

人間はみな、利己的で競争的な生存本能をもっています。同時に利他性や共感能力(これも本能としてあるようです) ももっています。共感能力があるからこそ、代理外傷や共感疲労に苦しみます。みんな、弱さと強さを抱え、良心とずるさを抱え、善良さと冷淡さを両方持って生きています。両方を備えているからこそ、罪悪感は生まれます。きわめて人間的な感情だといえるでしょう。

(47頁)



支援者がときに抱く負の感情、これもまた事実である。復興支援だけでなく、自死に関する活動にも深くかかわる問題点について、あらためて考えさせてくれる良書である。

(N.S.)

今月のことば

あのときの私がいて 今の私がいる
だから、私は私と向き合い 生きてゆきます

(琴葉とこ 『メンヘラちゃん』[Ⓓ] イーストプレス)

活動報告

- 12月期電話相談件数…176件 (無言12件、よりそいホットライン担当51件を含む)
- 相談活動委員会
グループ研修 12月3日(月)10名、12月20日(木)10名
- 広報・発信委員会
委員会会議 12月12日(水)6名
- グリーフサポート委員会
語りあう会 12月13日(木)8名 (参加者1名)

寄付ご協力一覧 (敬称略・順不同) 2012年12月1日～12月31日

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派
株式会社エクザム
葛野洋明
西義人
岐阜教区仏教婦人会連盟
街頭募金にご協力いただいた皆様
高知県・法城寺
吉田明
岩波久美子
佐長道亮

●支援方法

賛助会員 年間1口3,000円

寄 付 金額は問いません

法人会員 年間1口10,000円

●会費・寄付金振り込み先

郵便貯金 ゆうちょ銀行[振替口座] 00950-0-271875

他行間 ゆうちょ銀行[当座] ^{ゼロキョウキョウ}〇九九店 0271875

●模造紙、ホワイトボードマーカーなど、現物での寄付も大変助かります。

Sotto コメント

新年ですね。皆さんそれぞれの新年を迎えられたと思います。京都は天気はいいものの、とても寒い日が続いています。ノロウィルスやインフルエンザが流行しているようですね。マイコプラズマ肺炎などという聞きなれないものも流行しているそうです。どうかお気をつけて。今年もよろしく願います。(N.Y.)

発行 2013年1月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
Email so-dan@kyoto-jsc.jp